

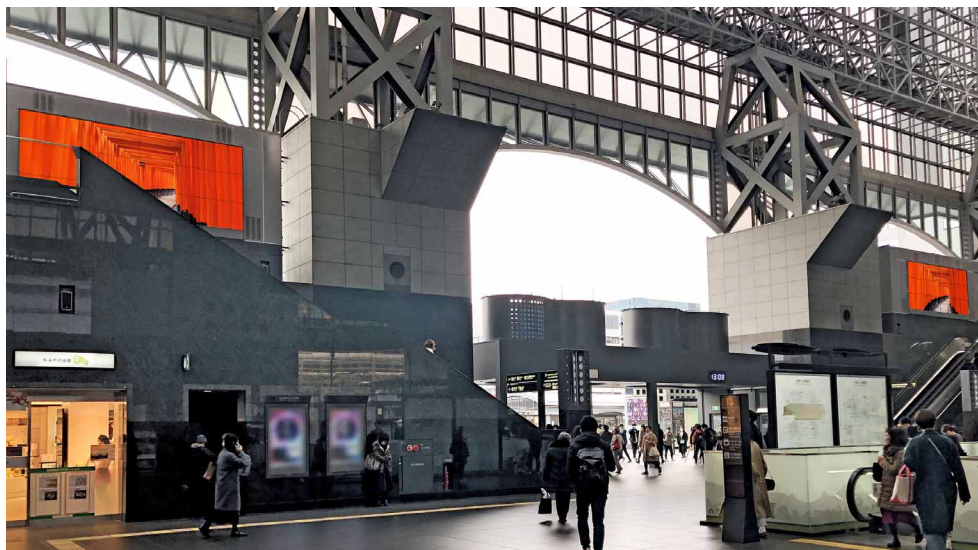
# 京都駅の玄関口を囲む4つの大型マルチディスプレイ 広告と共に“京都”を発信する映像で注目度をアップ



## 導入先

株式会社JR西日本コミュニケーションズさま

- 大阪府大阪市
- 1979年創立。JR西日本グループとして、駅・車両・百貨店・駅ビル・ショッピングセンター・ストア・ホテルなど、グループの資産を活用した広告宣伝活動をトータルに展開。



## 導入商品

### インフォメーションディスプレイ

PN-V701 (70V型)×42台  
PN-V601A (60V型)×24台

- 2018年4月から運用開始。JR京都駅中央コンコースの南側壁面に70V型3×7面の21面マルチディスプレイを2カ所、北側壁面に60V型3×4面の12面マルチディスプレイを2カ所設置。「京都プレミアムvision」として広告表示に活用されている。

## こんなソリューションを実現しました。

### 導入前の課題

京都駅の中央コンコースは1週間あたり推計107万人が通行する京都の玄関口です。そのアトリウム空間を囲む形で従来から電照看板を設置していましたが、より注目度を高めるため、動きのある映像を表示し、広告媒体としての価値を高めたいと考えました。

「京都プレミアムvision」として大型マルチディスプレイを4カ所に設置。同時に流れる映像はインパクト大。

高精細な画面を活かし、広告だけでなく京都の美しさを表現する映像も表示。相乗効果で注目度アップ。

安定運用できる堅牢性・耐久性にも満足。より広告効果が高い媒体としてクライアントからも高評価。



株式会社JR西日本コミュニケーションズ  
交通メディア本部  
業務推進部 業務推進グループ  
塚越 勇太さま

## ■ 導入の背景

多くの通行客で賑わう京都駅中央コンコース。  
デジタルサイネージでさらなる空間価値向上へ。

京都駅中央コンコースは1週間あたり推計約107万人の方が通行される京都の玄関口です。従来から広告効果が高い立地を活かし、中央改札を挟んだ左右の壁面上部と、その対面のエスカレーター側の壁面上部に電照看板を設置しており、クライアントから好評を博していました。2017年に京都駅ビルが20周年を迎えたことをきっかけに、さらなる空間価値向上を検討し、これらの看板をデジタルサイネージ化する方針が決まりました。

## ■ 選ばれた理由

広告を表示するため安定性を最も重視。  
多数の運用実績に基づく信頼感が決め手。

クライアントとの契約に基づき広告表示を行うため、安定運用できるかどうか機器選びの一番のポイントでした。特に今回は高所設置になるため、修理やメンテナンスが難しく、なおさら安定性を重視しました。その点、シャープ製のディスプレイは当社で多数の運用実績があり、その堅牢性・耐久性に最も信頼感がありました。一方、組み合わせでいろいろなサイズ・形状の大画面が構成できるマルチディスプレイ方式により、電照看板をはずした場所にぴったり収まる設置ができる点も評価しました。

## ■ 導入後の効果

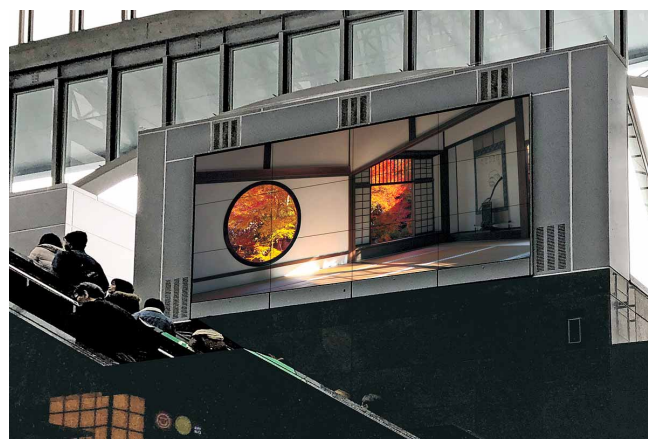
4つの大型マルチディスプレイに囲まれる演出。  
「京都プレミアム vision」として大好評。

中央コンコースのアトリウム空間を囲むように、70V型3×7面の21面マルチディスプレイと、60V型3×4面の12面マルチディスプレイを各2カ所、計4カ所に設置。「京都プレミアム vision」として運用していますが、4カ所で同時に流れる高精細な大画面映像はインパクト抜群です。複数クライアントの広告掲出に加え、京都の美しさを表現するコンテンツも制作して表示。四季折々の京都の美しい映像は観光客にも好評で、記念写真を撮られている方も多く、注目度が大幅に上がりました。広告媒体としての価値が高まり、増収にもつながっています。

## ■ 今後の展望

JR西日本エリアの主要駅に設置している  
デジタルサイネージのリニューアルも計画。

JR京都駅にはコンコースや改札口近辺に多数のディスプレイを設置していますが、「京都プレミアム vision」は従来の柱巻きサイネージとは異なる新しい空間演出効果が得られました。一方でJR西日本エリアの主要駅では2011～13年頃にかけてデジタルサイネージの設置を大規模に実施しており、その当時の機器を時代のニーズに即したものに順次リニューアルしていく計画です。



エスカレーター上部に設置された60V型3×4面マルチディスプレイ



中央改札券売機上に設置された70V型3×7面マルチディスプレイ



地下鉄連絡口のコンコースに設置された柱巻きディスプレイ